

早稲田大学大学院日本語教育研究科

修 士 論 文 概 要

論 文 題 目

日本語学習者は日本語の授業をどのように経験するのか
—協働的学習活動への意味づけと参加をめぐって—

初見 絵里花

2009 年 9 月

日本語学習者は日本語の授業をどのように経験するのか

—協働的学習活動への意味づけと参加をめぐって—

初見絵里花

本研究の目的は、日本語学習者が日本語の授業、特に協働的学習活動が行われる授業をどのように意味づけているのかを追究することである。この目的を追究するため、日本語学習者にインタビューを行い、学習者が授業をどのように意味づけているのかを質的に分析する。

章の構成と題は次のとおりである。以降、章の順に内容を概括する。

1 章 本研究の問いと意義

2 章 研究方法

3 章 「クリティカル・リーディング」の詳細と記録

4 章 インタビューとその分析

5 章 考察

6 章 総括と今後の課題

1 章 本研究の問いと意義

本章では、本論を展開するにあたって前提となる、本研究の問いと意義を明確にする。具体的には、①研究の動機②研究の意義③研究の目的に言及する。

研究の動機は次のとおりである。筆者は協働的学習活動への参加を通して「学習者の主体性」と「協働」に興味を持った。ボランティアとして参加した留学生のクラスで、ある学習者が協働的学習活動に対し「この授業は何のためにやっているかわからない」と語ったことに問題意識を持ち、「教師主導の言語学習経験を持つ学習者は協働的学習活動になじまない」という仮説を持って教室に参加した。複数の学習者へのインタビューを経験するうちに、当初の仮説が妥当でないと判断すると同時に、「学習者が授業を意味づけるプロセスを知りたい」という興味を明確にした。以上が研究の動機である。

研究の目的は次のとおりである。本研究は、2008年度の1年間にわたって筆者が参与観察を行った都内某私立大学の別科日本語専修課程日本語科目「クリティカル・リーディング」（以下、「CR」）を研究対象クラスとし、クラスに参加した日本語学習者、李（仮名、

韓国人・男性)を研究対象者とする。本研究は、3回にわたる李へのインタビューの分析を主体とする研究である。

本研究は具体的に以下の3点を明らかにすることを目的とする。

①李はCRをどのように意味づけるのか。

②李は授業における自身の立ち位置や参加態度をどのように決定するのか。

③李の授業への意味づけと参加はどのように関わるのか。

本研究の主題は、李のCRへの意味づけを探ることである。したがって、本研究の目的は以上3点の目的のうち、①が明らかになれば良いことになる。しかしながら、筆者はインタビューの分析を通して、②を考察するための新たな視点を得た。そのため、李のCRにおける参加態度や役割意識についても考察し、最終的な結論として③に挙げた問いを考察する。

2章 研究方法

本章では研究方法を述べる。具体的には、研究対象とデータ収集の方法、およびデータ分析の方法に言及し、特にデータ収集の手順と方法について詳細に述べる。なお、研究対象クラスについては3章、データ分析の方法については4章でそれぞれ詳細に述べるため、本章では触れる程度にとどめる。

3章 「クリティカル・リーディング」の詳細と授業記録

本章では、本研究におけるインタビューの語り手である李が参加し、意味づけを行う対象となるCRの詳細を述べる。具体的には次の2点について記述する。第一に、CRを理解するために必要なクラス・データを詳細に記述する。第二に、李のCRへの意味づけに大きくかかわるできごとである「食糧問題」のユニット計画と実施について記述する。

4章 インタビューとその分析

本章の目的は、李へのインタビューを通して、李にとってのCRの意味を探ることである。本章は4節から成る。1節では、インタビューの目的と分析方法を述べる。2節から4節では、筆者が3回にわたって行った李へのインタビューの内容を詳細に分析する。

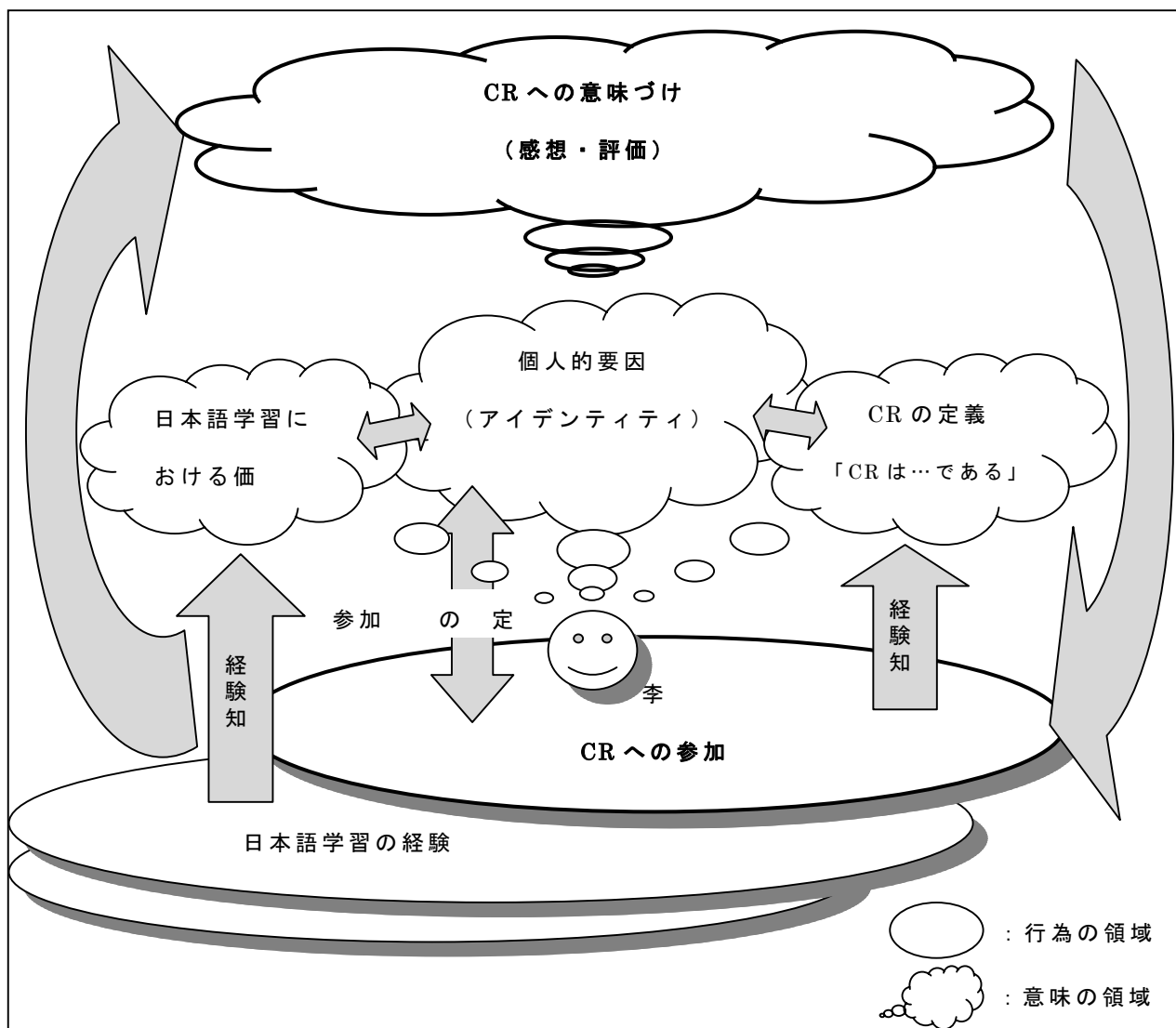
本研究におけるインタビューは、桜井(2002、2005)およびやまだ(2000、2005、2007)のライフストーリー・インタビューの方法論に沿って実施・分析する。ライフストーリー

研究の方法論に沿う理由は、個人の「意味づけ」を明らかにするという点で、ライフストーリー研究と本研究が共通する目的を持っているからである。本研究では、インタビュー場面における李の発言を一様に「語り」と呼び、李の語りを詳細に分析する。

5章 考察

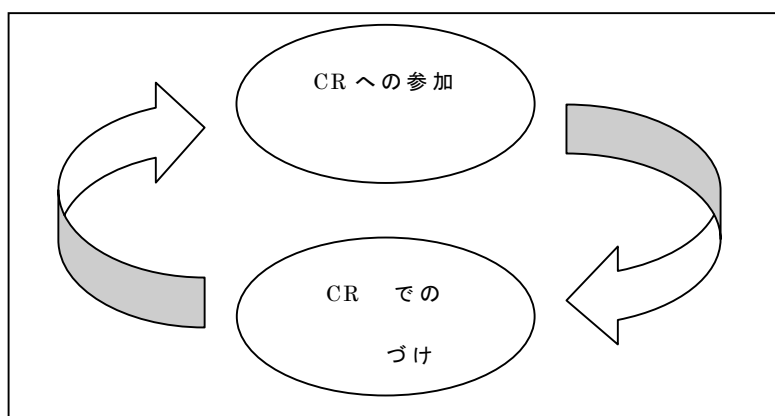
本章では、4章での分析をまとめて総合的な考察を試みる。具体的には次の3点について考察する。第一に、3回のインタビューとその分析をまとめ、李のCRへの意味づけと参加に関わる諸要因との関係を明らかにする。第二に、インタビューの分析を通して見えた新しい視点について考察する。第三に、以上ふたつの考察をまとめ、李のCRへの意味づけと参加の関係を明らかにする。

考察①：李のCRへの意味づけと参加、および諸要因との関係（図）



李は CR への参加を通して、「日本語学習における価値」「個人的要因（アイデンティティ）」「CR の定義」という 3 つの意味領域を立ち上げ、それらの兼ね合いのなかから CR を意味づけている。また、李は CR への参加を通して 3 つの意味領域を変化させながら新たな意味づけを行っている。つまり、李は CR への意味づけと参加のサイクルのなかにいる。李の CR への意味づけは CR への参加態度を変化させ、変化した参加態度によって意味づけもまた変化する。

考察 : CR における李の参加と 意味づけ (図)



李は CR への参加を通して、クラスの構成員である教師や学習者との関係性を吟味しながら、CR における自身の立ち位置や参加態度を定めている。その過程でクラスにおける自身の役割を見出し、CR のコミュニティのなかに自身を位置づけているのである。李にとって CR はひとつの社会であり、李はその社会の中でより良く生きていくために「学習者」としての「クラスルーム・アイデンティティ」（嶋津 2003）を醸成し、学習者としての役割を果たすことによってクラスルーム・アイデンティティを強化していると考えられる。李は、関係性のなかに自身を位置づけるために CR に参加し、参加することによって位置づけられるというサイクルのなかに身をおいている。

考察 : 李の CR への意味づけと参加

李は CR という彼にとっての社会の中で、個人的なアイデンティティと関係性のなかのアイデンティティを常に模索していた。このことから、学習者が授業に参加するということは、個人的なアイデンティティを追求すると同時に、その「私」が社会的な関係性において位置づけられることを望むこと（鯨岡 2006）であると考えられる。そして、学習者が授業に「積極的に」参加するということは、学習者の持つ個人的なアイデンティティと、授業を通して醸成された関係的なアイデンティティの両方にとって意義がある—つまり、両方が強化される—と、学習者自身が判断した結果としての行為である。

6 章 と の

最終章となる 6 章では、本研究を総括し、教室における学習とは何かという筆者の問いに対する解釈を述べる。最後に今後の課題を述べて本論を締めくくる。

①学習とは何か

学習とは、社会的実践に参加する過程そのものなのであり、参加を通してコミュニティのなかに位置づけられ、アイデンティティが変容していくことである。また、実践において教師と学習者が協働するなかでコミュニティの活動が変化していくという事態そのものも「学習」と言えるのではないか。

②今後の課題

- 1) 本研究では、李が「意味づけと参加のサイクル」および「位置づけと参加のサイクル」のなかにいることが明らかになった。しかしながら、両者の関係については、本論では明らかにすることができなかった。また、特に「位置づけと参加のサイクル」は分析の終盤で出てきた知見であったため、これをより深く考察するための十分な時間が得られなかった。以上の課題は今後も引き続き考察する。
- 2) 本研究では李の日本語学習、あるいは日本語習得の実態を明らかにすることができていない。「日本語学習」および「日本語習得」という視点で本研究を捉えた場合、本研究が示唆できる点は非常に少ない。今後は、学習者が日本語を学習するとはどういうことなのかを、より切実な問題として考えていかなければならない。

本 要の参考

- 鯨岡峻（2006）『ひとがひとをわかるということ―間主観性と相互主体性』ミネルヴァ書房
- 桜井厚（2002）『インタビューの社会学―ライフストーリーの聞き方』せりか書房
- 桜井厚（2005）「第 1 章 ライフストーリー・インタビューをはじめ」桜井厚・小林多津子（編著）『ライフストーリー・インタビュー―質的研究入門』せりか書房 pp.11-70
- 嶋津百代（2003）「クラスルーム・アイデンティティの共構築―教室インターアクションにおける教師と学生のアクトとスタンス」『日本語教育』119 号 pp.11-20
- やまだようこ（2000）「I 人生を物語ることの意味―ライフストーリーの心理学」やまだようこ（編著）『人生を物語る―生成のライフストーリー』ミネルヴァ書房

pp.1-38

やまだようこ(2005)「6章 ライフストーリー研究—インタビューで語りをとらえる方法」

秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(編)『教育研究のメソドロジー—学校参加型マイ
ンドへのいざない』東京大学出版会 pp.191-216

やまだようこ(2007a)「9 ライフストーリー・インタビュー」やまだようこ(編)『質的
心理学の方法—語りをきく』新曜社 pp.124-143